

・年金、退職金の法的制度について
おおよそ理解できた。

また、将来の生活設計に役立て
ることができるものとなった。

・共済年金制度は頭から分らない
制度と思っていたが、「共済年
金の基礎知識」の資料等で分かり
やすく説明されてよく理解できた。

(四) 講演四 資産の運用

・生活設計の経済面からのアプ
ローチとして、一種の水先案内的
講義で有意義であった。

これらを一つの契機としてい
ろ自分なりに勉強、研究する
きっかけができたと思う。

・定年後の退職金の使い道を細か
く分かりやすく教えられ、何と
なく分かったような気がした。

今後の生活に生かしていきたい
と思う。

・資産の運用等専門家の話を聞く
機会があまりなかったので、この
企画は大変よかったと思う。

・お金にはあまり縁がなかった生
活をしてきたので、資産運用とか
金利等について考えたことがあ
りなかったのでよい勉強になった。
これを機会にもっと真剣に考え
てみたいと思っている。

三 今後の在り方

アンケート調査の結果を見ますと、

参加者からは全体的にはかなり高い評
価を得ておりますが、細部になると検
討すべき点もあります。特に、会場数
の増加並びに会場設定の方法につい
ては、今後の課題と考えております。

また、希望する講座内容をみますと、
健康管理、年金制度に対する要望が特
に強いので、今後もこれらを中心に引
続き実施していきたいと考えています。

おわりに

以上ライフサイクルプラン講座の内
容等について紹介しました。改善すべ

き点は改善し、より充実したものに
していこうと考えています。

最後になりましたが、高齢化社会の
中でいかに生きるべきかという問題は、
結局は個人の問題であります。言い換
えますと、個人の考え方、姿勢が健や
かで豊かな人生か否かということに大
きな影響を与えてくると思われま

このことを各人が念頭に置かれて講
座に参加し、そして自己の生活設計を
築くうえで、この講座が少しでも役に
立つことができれば幸いです。

ライフサイクルプラン講座（講演要旨） 六十歳からの生き方

千葉大学名誉教授 多湖 輝氏

今日は、「六十歳からの生き方」と
いう演題ですけれども、一般的には、
高齢化社会の抱えている問題といいま

か、その中でどう生きていくのがい
かかというようなことで、私も実はま
さにそういう年齢であります。私は昨年
の春、千葉大学を辞めたわけですが、
辞めてみて、この自由さというのは、
たまりませんね。今まで私は大学にい
て随分、勝手なことを言わせていた
きましたけれども、それでも自分でい
ろいろと制約をつくって、これはやっ

てはまずいんじゃないかと、いろん
なことを考えました。

何だか教師をやっておりましたが、
あんまりさえなかったのですが、辞め
てみましたら本当にいい気分であ
ります。

しかし、こうして辞めてみまして、
いよいよ私も高齢化社会の仲間入り
かと思いましたが、周りにどうもあ
まり元気のない人たちが多くいます。
定年退職してしまうと、もう何かふ
けみたくてしまうような人が多

ざるので、それで私は「六十歳からの
生き方」という本を書いたのです。そ
うしたらおかげさまで大変売れまし
て今、本屋さんでなかなか手に入ら
ないぐらいの売れ方で、やはりそうい
うのを求めている人が多かったと思
いました。つまり今まで高齢化の問
題を話題する時に、どうも暗い話が多
すぎるとか、そのような話はかりで
すから。

そこで私は、そうではなくて、確
かに健康も衰える、衰えてきます
けれども、しかし、精神的な意味では
元気に若くやっていけるのではない
かと、私は心理学をやっておりました
ので、そういう意味での励ましのエ
ールを我々の仲間を送りたいとい
う趣旨で書いたのであります。し
かし、これがその受け入れられる
素地というものがあるか、それが
確かか、高年齢化ということが、
盛んに言われるようになってまい
りました。

しかしながら、高齢化社会とい
うのは日本の場合非常に特徴的な
ことがあります。一つは、日本の
高齢化社会といふのは、急速に
来るのであります。これはもう
言い古されていることであ
りますが、去年の発表ですが、
六十五歳以上の人たちが総人口
の中で占める比率、これが十一
・六パーセントです。去年の
発表で、今年はどうなっている
か、もう少し変わっているか
もしれませんが、これがスウェー
デンは十七・七パーセント。イ
ギリスが十